「いのち」と「暮らす」と「生きる」を学ぶ、まちのジャーナル

ライフの学校新聞

Vol.17

2026年 秋号

ウェルカム！カフェ

リニューアルオープン



ウェルカム！ カフェは、商品ラインナップの検討や試作、店内の改装工事を経て、今年7月にリニューアルオープンしました。店内の一部をパンやスイーツを製造できる工房に改装し、イートインだけでなく、テイクアウトでも販売しています。キッチンカーの運用もスタートし、より多くの場所でウェルカム！ カフェを楽しんでいただけるようになりました。ここでは、カフェスタッフいちおしの商品と、こだわりについて紹介します。



文：杉山いのり

クリームパン



スタッフが一から考案した、とっておきの一品です。開発期間はなんと3年！一度食べれば、きっとクリームパンの虜になること間違いなし。

焼き菓子



日々のちょっとしたご褒美におすすめなのが、カヌレやマカロン、レモンケーキ。なかでもレモンケーキが好評です！

酒種



仙台市若林区蒲町にある『おにぎり茶屋 ちかちゃん』の米糀を使って、酒種をつくっています。販売しているパンのほとんどに使用。ほんのりとした優しい甘さが特徴です。

スタッフレシピ！

エンティさんのにんじんラッドゥ

「ラッドゥ」は穀物の粉と砂糖などを練りあわせたバングラデシュの伝統的なお菓子。やさしい甘さと素朴な味わいが魅力！



① 人参をすりおろし水を切り、油で炒める。牛乳を加え、やわらかくなるまで煮る。
② 水分が飛んだら、クリープと砂糖を加える。
③ 冷めたら手に薄く油を塗り、好みの形に丸める。
（固まらないときは、クリープを追加する）
④ ドライココナッツをまぶして完成！



文：遠藤圭



めいちゃん ゆきちゃんの日々



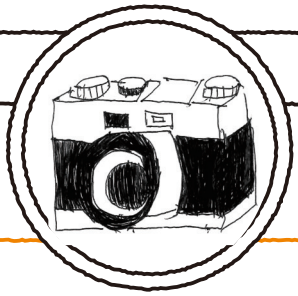
生の草や干し草が主食のヤギ。草だけでは塩分・ミネラルが不十分なので、補給できるように岩塩をヤギ小屋に置いています。ユキちゃん、メイちゃんが来た2021年に20センチほどのものを購入してから、5年間使用。今年の8月に使い切り、新しいものを買っています。どんなに小屋のなかが散らかっていても、岩塩がなくなることはないので、2匹にとって岩塩は大切なものとわかっているのかもしれません。



文：瀬戸潤

写真でたどる、ライフストーリー

佐藤よろづさんの一枚



夢を持ち、叶えるために

いくつになっても夢は叶うと思ってるの

夢を持ち続けるよろづさん。一体どのような夢を持ち、どのような人生を歩まれてきたのか



娘の七五三で撮った家族写真。
一番右で、息子を抱っこしているのがよろづさん

生い立ち

母親の兄が満州で暮らしていたことから、母親も満州へ。そこで父親と結婚。よろづさんは、旧満州大連市の郊外にある家河子（かかし）で生まれました。こどもの頃に戦争を経験し、終戦を迎えたのち、日本へ帰国。その後、岩手県で暮らした時期がありましたが、「こんな田舎で死んでなんかいられない」と宮城県仙台市へ。「じっとしていられない性格なのよね」と子育てをしながらも化粧品会社に勤め、定年まで働いたそうです。



文・聞き取り　中島駿

旅行の思い出

働いていた化粧品会社では、毎年ハワイに行ったそうです。60歳で定年退職したあとも、「60歳からうわついちゃった」と話すほど、たくさん旅行へ行ったそう。なかでも、家族と行った旅行が印象に残っていると話します。「成田空港からエジプトに行ってエーゲ海を船で渡ったの。そのあとドイツに行って、車でイタリアとフランスに行ったの」と懐かしそうに話していました。

ある映画との出会い

一人で映画館に行くほど、映画が好きなよろづさん。特に、ジェームズ・ディーンが出演する「理由なき反抗」という映画での「夢を持っていれば叶う」という言葉にとても感銘を受けたそう。孫から「おばあちゃんの今年の夢はなに？」と聞かれ、「（孫のいる）福岡に行くこと！」と答えたそうです。何歳になっても夢を持ちつづけること、そして、その夢を叶えることの大切さを、わたしたちに日々教えてくれています。



佐藤よろづさん

1934年11月3日 旧満州大連市生まれ。9人兄弟の8番目。映画や読書が大好きで、本は財産だと語る。現在は、六郷キャンパス共生型多機能センターを利用している。

ライフの学校とは

福祉施設を地域にひらき、さまざまなひとが集う「学びあいの拠点」にしている社会福祉法人です。現在は、萩の風・六郷・幸町・霞目・上飯田・新田の全部で6つのキャンパスと畑があり、高齢者福祉、障害者福祉を中心にさまざまなプロジェクトを行っています。

社会福祉法人
ライフの学校
https://gakkou.life

萩の風キャンパス 仙台市若林区上飯田字天神1-1

[利用案内] ※どなたでも利用できます

嫁入りの庭

入居するパートナーと一緒にかつての嫁入り道具のようにやってき家具や植木のある庭。ベンチには電源も。出入り自由。

◎24時間365日（年中無休）

ライフの図書館

福祉や地域に関する図書が並び、自習室としても利用できます。

◎時間＝9:00–18:00（金曜は15:30まで）

駄菓子屋「かみふうせん」

看板猫のふうたもお待ちしています。

◎時間＝10:00–16:00（年中無休）

こども食堂「おかえり」

嫁入りの庭でとれた野菜も使用した料理は好評！

◎日時＝第3土曜、12:00–14:00

そのほかのイベント

ウェブサイトでご確認ください。

霞目キャンパス 仙台市若林区霞目2-14-26

ウェルカム！ カフェ

日替わりメニューはインスタストーリーをチェック！

◎日時＝火～土曜（祝日営業、日・月曜休み）、10:00–16:30

Instagram

新田キャンパス 仙台市宮城野区新田5-1-20

ゆとりの医科歯科クリニック

口腔と全身の健康管理ができます。詳細はウェブサイトをご覧ください。

おしらせ

六郷キャンパスの駄菓子屋さん リニューアル計画！

2025年からはじまった、六郷キャンパスにある駄菓子屋。ここにはまだ名前がなく、萩の風キャンパスの駄菓子屋「かみふうせん」のように、地域のこどもたちに名前を考えてもらいたいと、名称募集のプロジェクトをスタートしました。まずは、六郷児童館や六郷小学校に投票箱を設置し、これからどんな名前にするか、地域のみなさんとともに考えていければと思っています。六郷キャンパスならではの地域食堂との連携や、以前も紹介したチロル堂のガチャガチャの導入など、これから進化していく六郷キャンパスをお楽しみに！





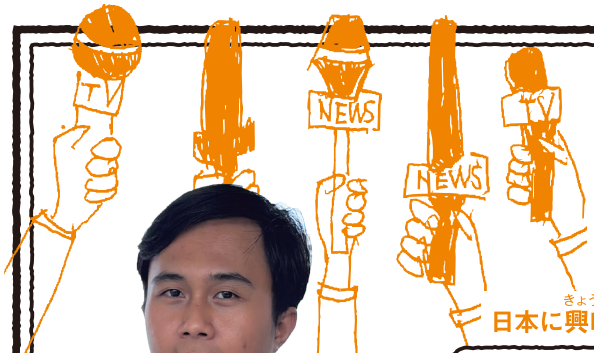
編集後記

レシピでは、調理表現の日本語に苦戦しながらも、妹のモンティさんと一緒に一生懸命教えてくれました。「ドライココナッツって何？」とわからずにいると、画像を検索しながら「これは違う～」「これも違うなぁ…」「そう！これ！」と盛り上がる場面も。幸町キャンパスのパートナーにも大人気のおやつです。遠藤

新聞の内容が決定したあと、「おにぎり茶屋ちかちゃん」へあいさつに行きました。お土産にちかちゃんの米糀を使ったパンを渡したところ、「すごいですね！」と言ってもらい、こちらもうれしくなりました。掲載許可も快く引き受けくださり、ありがとうございました。いただいた甘酒もとってもおいしかったです！ 杉山

ライフの学校新聞　Vol.17　2026年秋号
発行日：2026年10月19日
発行：社会福祉法人ライフの学校
宮城県仙台市若林区上飯田字天神1-1
022-369-3907

発行人：田中伸弥
編集：堀内直美＋守安里沙＋杉山いのり＋渡邊かおり＋伊東星璃＋遠藤圭＋佐藤由樹乃＋中島駿＋宮東涼夏［ライフの学校］
デザイン：阿部航太、伊藤健太
イラストレーション：阿部貴志＋安川皓＋今野純奈＋松村彩＋平田空真［ライフの学校］



このまち インタビューVol.17

アデ プトラ ナウファルさん

六郷キャンパス 特定技能実習生



2000年インドネシア中部、ジャワ生まれの26歳。2026年4月に特定技能実習生として来日。現在は六郷キャンパスで勤務。趣味はアニメを観ること、アニメソングを聞くこと。好きな食べ物はカレー。揚げ春巻き。



聞き手・文：
佐藤由樹乃

日本に興味を持ったきっかけは何ですか？

日本を好きになったきっかけは、中学生のころに見ていた日本のアニメです。毎日、日本のアニメを見ていると、日本語も自然にわかるようになりました。YouTubeでインドネシア人が、日本で働いている動画を見たこともきっかけの一つです。「自分も日本で仕事をしてみたい」という気持ちが強くなり、両親にお願いをして、日本に来ることを決めました。



いま、一番頑張っていることは何ですか？

仕事と日本語の勉強を頑張っています。仕事では、わからないことや慣れていないことが多いので、一つひとつを覚えながら頑張っています。ケアの仕事では、パートナー（利用者さん）が安心して過ごせるようにすることを大切にしています。日本語は、特に漢字や言葉の使い方が難しいです。今年の12月には、日本語能力試験2級を受験する予定です。合格できるように、これからも一生懸命勉強を頑張りたいです。

将来、どんなケアスタッフになりたいですか？

パートナーを笑顔にできる、信頼されるケアスタッフになりたいです。一緒に働いている先輩スタッフは、一人ひとりに寄り添い、いつも笑顔で接しています。わたしも先輩たちのように、パートナーが安心して毎日を過ごせるようなケアスタッフになりたいです。そのために、介護の知識や技術だけではなく、日本語もしっかり勉強して、パートナーやスタッフのみなさんと、もっと上手に楽しくコミュニケーションがとれるようになりたいです。

小さな美術館

「保育士手づくりの魔法のおもちゃ」





保育園では、保育士が日々おもちゃを手づくりしています。折り紙や新聞紙、スズランテープなど、身近な素材を使ってつくります。こどもたちは、マイクに見立てて歌ったり、ポンポンのように持って踊ったり、投げてみたり。遊び方は一つではなく、こどもたちが「これは何に見える？」「こうしてみよう！」と自由に発想することで、同じおもちゃがマイクや楽器、踊りの道具など、いろいろなものに変身。身近な素材から生まれたおもちゃが、こどもたちの想像力で魔法のように姿を変えていきます。そんな想像力が広がる遊びを大切にしています。



文：伊東星璃